

共につくろう！ 世界がまだ見ぬボールパークを

北海道日本ハムファイターズの新球場（ボールパーク）が北広島市に建設されることが正式に決定。栗山監督が市役所を訪れ、2023年の新球場開業に向けた熱い思いを上野市長と語り合いました。



北海道日本ハムファイターズ監督

栗山英樹さん

北広島市長

上野正三

北広島市の印象

——まずは栗山監督、北広島市についてどのような印象を持っていますか。

栗山 千歳で飛行機を降りて、札幌へ向かう間に北広島があるイメージです。僕も栗山町に住んでいるのでよく通っています。北広島という名前にインパクトがあり、広島から昔たくさんの方が来られたのかなという印象もあります。野球人にとっては、プロ野球の本拠地がある所は特別なので「広島」はそういう意味で印象深いです。先ほど、新球場建設予定地を見て来ました。自然に囲まれた中に球場ができる感じですね。

市長 建設予定地は37畝で、道路を挟んだ国有林は約370畝あります。現在、建設予定地に隣接した部分の40畝は国から借り受け、散策路やアスレチックコース、冬は歩くスキーなどを楽しめるレクリエーションの森として、市民の皆さんに活用いただいています。

栗山 一年中いろいろ楽しめるという事です。自然が残ったままで札幌にも千歳にも近く、これほど便利な場所が残っていたこと自体が、ある意味奇跡的ですね。本当に、フ

北海道日本ハムファイターズ監督

栗山英樹さん



昭和36年、東京都小平市生まれ。元プロ野球選手（外野手、右投両打）。現役引退後は、野球解説者・評論家、スポーツジャーナリスト・ライター、大学教授などの経歴を持つ。平成24年から北海道日本ハムファイターズの監督を務める。

アイターズのために残っていたという感じですね。

市長 この場所は、昭和45年に運動公園として整備することが決定していました。しかし、そのころ道営団地ができて人口が急激に増えたため、運動公園よりも他の施設整備が優先されてきました。過去に三度ほど野球場を含めた運動施設の整備を計画したのですが、まちづくり全体を考えたとき、文化施設や学校などを先に整備する必要があると判断しました。



市庁舎5階展望ロビーから建設予定地を眺める

新球場構想を知って

—— 最初に新球場の構想を知ったとき、どのように思いましたか。

栗山 いったんはつきりと覚えていないのですが、最初に聞いたときは、普通に考えると実現は難しいと思いました。お金もかかるし、場所もどうするのかということ、現実味は正直なかつたです。でも、僕らにとつては本当に夢ですし、ファイトアズならできるかもしれないと思ひ、すごく楽しみにしていました。市長も本当に大変だったと思います。最初に誘致するんだと言ったとき、

現実的に考えるとなかなか難しいと思ったのではないのでしょうか。ただその生き様や考え方が、とてもファイトアズに近い感じがありました。

市長 運動公園を官民連携で整備するということも模索していて、ファイトアズの2軍戦を行えるような球場が造れないか球団と話をしていました。そんな中、平成28年5月に球団が新球場構想を発表し、北海道は交通のアクセスが良く、北海道を体感できる最高の場所だということ、誘致活動をスタートしました。

栗山 市長、簡単に説明していただき、決断される方は本当に大変だったと思います。もし僕が市役所に勤めていたら、「市長いきましようよ、野球場造りましようよ」とたぶんすごく言うと思うんですよ。でも立場上、現実的に考えなければならぬと思ひ、現実的に考えすぎると何もできなくなってしまう。そのときの市長の「行くぞ」と決めた感じっていうのは、とても大変だっただろうなと想像します。そういうところも聞かせてもらえるかと、今年僕は勝負どころで勝負できるかなと。

市長 このまちは先人の方々が、さまざまな挑戦をしながらまちづくり

をしてきたという経過があります。

そういう意味でここを逃したら駄目だという感じがしました。他にも候補地はありましたが、北海道を体感できてこれだけの面積がある場所が、ここ以外にどこがあるんだと思ひましたね。

栗山 そういった強い思いと、市長が野球に詳しくあったというのがやはり大きいですか。

市長 野球は好きです。スポーツ全般が大好きな人間ですから、昭和45年に運動公園の計画を立ててから、50年近くも手付かずで来ているというのは苦しかったですね。

栗山 市長にとつても夢だったわけですね。

市長 そうですね。

新球場イメージ図

—— 新球場の立体的なイメージ図を見てどのような感想を持ちましたか。

栗山 もし僕がこういう球場でプレーさせてもらえるのであれば、もう何の言い訳もできないくらい命懸けでプレーしなきゃならないと思ひますね。1回こういうところで野球をやりたかったって心の底から思ひます。本当に僕らの夢ですね。この球場ができたなら、日本の野球界も変わ

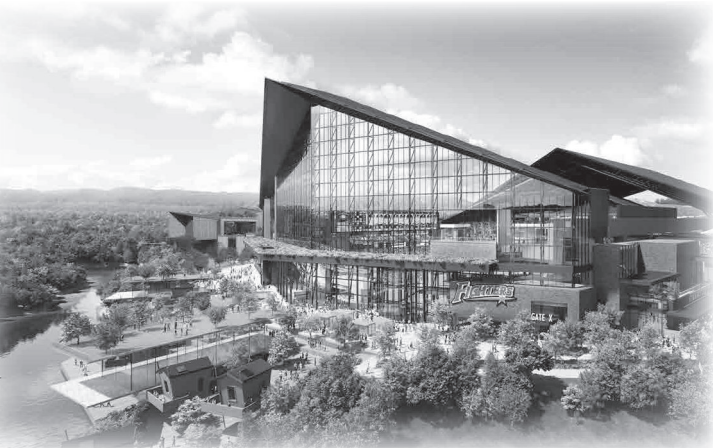
ると思ひます。他のチームにも一気にいろいろな流れが生まれるのではないのでしょうか。

市長 北海道は雪が降りますから、昔から切妻造で三角屋根の住宅が多いですよ。球場の屋根を見て、北海道の歴史を取り入れてくれていたのかなと感じました。

栗山 確かに北海道の家という感じがしますね。象徴的な建物という感じですね。

新球場のコンセプト

—— 「北海道のシンボルとなる空間を創造する」、そして「世界がまだ見ぬポールパーク」を目指すという





お酒を飲みながら、温泉に入りながら見るができる。その広さ、通路一つ取っても、野球場の概念が変わってしまうくらいのもになるのではないかと思います。

新球場で活躍する選手たち

——新入団選手発表会見の際、新球場での活躍について話している選手もいました。新球場ができたとき、選手たちはどのような状況になっていると思いますか。

栗山 吉田輝星投手が言っていたように、俺が開幕投手をするんだという争いがあの辺の世代中心に起こっていて、クリーンアップには清宮選手がいて、今の若い人たちが、日本を代表するような選手たちになっているのかなど。多くの球児たちが「北海道で野球をやりたい」という状況ができると思うので、そこに持つていく責任が現場としてはありますね。これだけすごいものを造ってくれるということなので、夢を与えられる選手たちにしておかなければいけないという気持ちがあります。

ボールパークとまちづくり

——市長は、ボールパークが今後のまちづくりにもどのように関わっていく

くと思いますか。

市長 市民の皆さんに夢や希望、生きる力、生きがいというものを与えてくれるのが、このボールパークだと思っています。以前、レアド選手が市内の小学校を訪れたときには、子どもたちが泣きながら握手するくらい感激していました。このような体験は、希望や勇気などを与えてくれるはずですよ。スポーツコミュニティ（スポーツと生活が近くにある社会）の実現、市と球団が一体となったまちづくりというのは、非常に重要になると思っています。

栗山 本当に近くなりますね、選手たちも。

市長 テレビでしか見たことがなかった選手が日常の中にいるなど、フアイトーズを通じて、市民の皆さんとスポーツがより身近なものになると思います。

プロ野球の魅力

——市はフアイトーズを道民・市民の「公共財」と考えています。監督が思う、プロ野球の魅力を教えてください。

栗山 昨年大きな地震があり、皆さんが苦しんでいるときに野球をやる



のかと思いました。普段は楽しみだったり、いろいろな思いがあると思いますが、本当に大変なときに頑張る姿を見せられなかったらプロ野球ではないと。姿を見せることで、笑顔になってくれたり、頑張らなくちゃと思うような存在になれたら一番良いと思っています。

市長 地震のあと、球団の皆さんをはじめ、選手の皆さんから、義援金をたくさんいただきました。さらに、稲葉篤紀さんには避難所に来て激励をしていただいて、大変な力をもらったと思っています。

栗山 大したことはできませんし、公共財という言葉なのかどうか分かりませんが、みんなのものであるという考えはすごくあります。

市長 例えば、今までの野球場は通路があつて観客席があつて野球を見る。それが、あまり野球に興味がない家族と来て、食事をしながら、

すが、どのように考えますか。

栗山 変な表現ですが、北海道は一つの国として単体で独立できるんじゃないかって、そう思っています。僕がもし子どもだったら、そういうところで生まれ育つたんだって自信を持って大人になっていける。ボールパークは、世界に発信できる北海道の代表的なものになると信じています。

「夢は正夢」

——監督の座右の銘である「夢は正夢」。まさしく、今回本市が目指しているものだと思います。

栗山 僕はもう勝手に言っているだけですけども。新球場が本当にできるのかなという思いは正直ありました。市長が正夢にしてくれたのかなと思っっています。あとは、正夢をどのように使うか、どういうチームを作るんですかと問われているような感じなので、しっかりと戦っていきたいと思います。

選手たちの反応は

——新球場建設が決まって、選手たちの反応はどうでしたか。

栗山 それはすごいですよ。正直、あまり言えないですけど。レギュラー選手の「僕どこに住めばいいんですかね」というところから始まって、できたときに絶対レギュラー取っていきなきゃとか。新人の選手にとつてもすごいプレゼントですよ。こういうところでできるというのは、選手たちもそれはもう喜んでます。

市長 選手の方には、ぜひ市内に住んでいただきたいですね。

栗山 僕も栗山町に住んでいて、買い物に行く幼稚園の子どもたちにも「監督頑張つてね」と、普通に声を掛けられます。北広島でも、選手が普通にまちを歩いているということが起こるので、ぜひそういう中で一緒に楽しんでいただければうれしいですね。

市民・道民の皆さんへ

——これから新球場建設へ向けて本格的に動き出します。市民・道民の皆さんにメッセージをお願いします。

栗山 まずは市長をはじめ、北広島の皆さんが頑張ってください、こ

の場所に新球場ができるということに、感謝の気持ちでいっぱいです。

ここに球場ができたなら、必ず皆さんがあそこに造つて良かったねという球場になるはず。今はまだ、いろいろと不安な点があるかもしれないが、ぜひ期待をして楽しみに待っていてください。皆さんに喜んでもらえるように我々もチーム一丸となつて頑張りますし、球団も頑張つて造つてくれると思います。ぜひその時を待っていていただきたいと思っています。

市長 おそらく選手の皆さんは、今まで以上のパフォーマンスを発揮できる、そういう球場になると思いますが、また、市民だけではなく道民の球団ですので、道民の皆さんがここに来て、「夢や希望を与えてくれるのはここだ」という体験ができるような施設にするため、これからも頑張つていきたいと思えます。

2023年に向けて

——最後にファイターズの昨年の振り返りと、今後の意気込みを教えてください。

栗山 昨年に関しては、8月に最後追い詰めていって、あそこから一気に上がるのがファイターズの戦い方

だったので、イメージ通り行っていたところが、最後勝ちきれませんでした。これは本当に僕の責任なので、道民の皆さんには大変申し訳ないと思っっています。新球場ができる前に必ず優勝して、常勝チームになつて、そこに向かわなければならぬという使命を、現場はすぐく理解していきます。ちょっとプレッシャーになりますけれども、目一杯やっていきたいと思っしますので、応援よろしくお願ひいたします。

市長 これから2023年の新球場完成に向けて、市としても全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



対談終了後、北広島ふるさと祭りで来場者にメッセージを書いてもらったパズルを見る2人。その中に「夢は正夢」と書いてあるのを見つけ、笑顔がこぼれました。